

電子黒板を利用した「日英対照メソッド」の

効果的な授業実践に関する研究

高知市立一宮中学校 教諭 橋尾 環

1. 主題設定の理由

自身が昨年度、実践研究した『日英対照メソッド』（橋尾, 2015）が、母語である日本語と英語による比較を通じ、メタ認知的に英語の構造理解を導くことで、学習者の「気づき」を引き出し、より正確で、適切な英語習得への助けになることがわかった。そこで、本研究において、英語と日本語との文法構造や意味の違いを、生徒の視覚・聴覚に訴え、「気づき」をより効果的に導き出す手段として、電子黒板を使用し、生徒に英語のチャンクを意識させ英文構造の理解へとつなげる指導授業実践（「チャンキングメソッド」）についての研究を行いたいと考える。

2. 研究内容

(1) 電子黒板を使用したチャンキングメソッドによる授業実践

① 前置詞の意味のイメージ化

前置詞句のような英文を構成する意味を持つ最少単位「チャンク」を図式化し、前置詞それぞれが持つ意味を理解しやすくする。（図1・図2）

図1

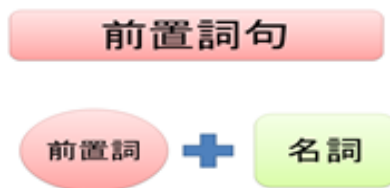
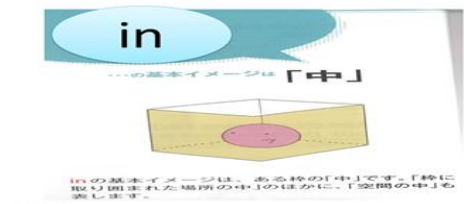


図2



② チャンクごとに意味を捉え音読する活動(スラッシュリーディング)

デジタル教科書の英文をチャンク単位に切り、英文の意味を捉えさせたり（図4）パワーポイントを使った自作の教材で、チャンク単位で示した日本語を英訳する練習を行う（図5）。

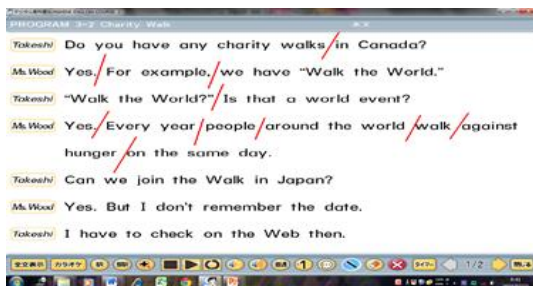


図4

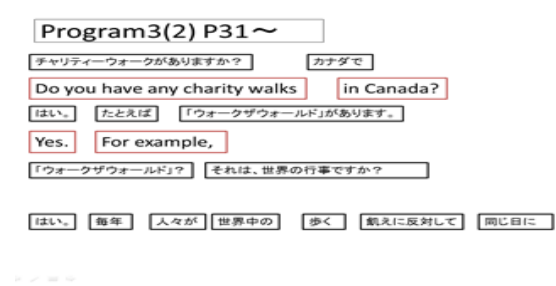


図5

③ 視覚的教材を使った文法指導や表現練習

パワーポイントを使って、文法や文構造を視覚的に説明したり（図6）、定着を目指した表現練習を行う（図7）。

図6



図7



(2) 学習ゴールの明確化を目的とした「ぼうけんくん」の使用

スピーキング活動のゴールを具体的に示すために、生徒のパフォーマンス活動を「ぼうけんくん」で録画し、授業で紹介する。(写真1・写真2)



写真1



写真2

掲載物使用承諾済

3. 成果と課題

チャンキングメソッドを取り入れた電子黒板を利用した授業実践の成果は、視覚教材をたくさん提示可能である電子黒板を利用した授業に対して、ほとんどの生徒が肯定的であることが「電子黒板を利用した英語の授業についてのアンケート」の結果からわかった。

問1. 教科書の本文や絵を電子黒板に写し出した方が、授業がわかりやすい。

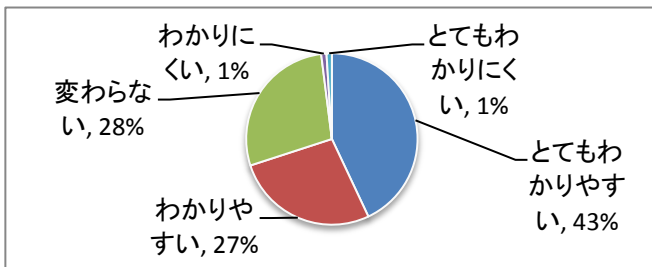


図8

左の図8から、全体の7割の生徒(「とてもわかりやすい」43%「わかりやすい」27%)が、デジタル教科書を使った授業の方が、従来の黒板と教科書を使用した授業より、わかりやすいと答えていることがわかる。その一方、「わかりにくい」と答えた生徒はわずかであった。

問2. 文法説明や練習を電子黒板で写し出した方が、授業がわかりやすい。

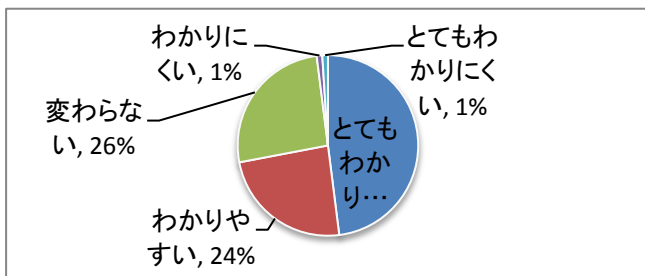


図9

左の図9から、全体の7割以上の生徒が(「とてもわかりやすい」48%「わかりやすい」24%)が、パワーポイントによる自作の教材を使った文法学習の方が、従来の黒板を中心とした文法学習よりわかりやすいと答えていることがわかる。その一方、「わかりにくい」と答えた生徒はわずかであった。

上記に示したアンケート結果から、「日英対照メソッド」をより効果的に実践する方法として利用した電子黒板は、生徒の英文構造の理解促進のために役立つことがわかった。生徒に英文のチャンクを意識させることは、日本語の文節と対比することも可能であり、しかもその違いを視覚的に提示することで、日本語を英訳する際に、生徒が正確に英文を書けることにつながると考えられる。今回の研究は、生徒の文法面での知識・理解を深めることに重点を置いた実践であったので、今後その基礎的知識をもとに、生徒が、ある一定の「まとまりのある文」を自律的に作っていける表現力の育成をめざした研究に取り組んでいきたい。

<引用・参考文献>

田中茂徳・佐藤芳明・阿部一(著)(2006).『英語感覚が身に付く実践的指導-コアとチャンクの活用法』, 東京:大修館

橋尾 環 (2014). *A Study on the Effectiveness of Japanese-English Contrastive Methods in Metacognitive English Grammar Teaching* (修士論文)

WIT HOUSE(編).『絵で見てイメージ!前置詞がスッキリわかる本』 東京:永岡書店